

豊潤の里 だより

産廃処分場反対の請願を市議会に提出

中 国 薬 材 2019年(令和元年)6月22日(土曜日) 興 地 域 (24)

安芸津に産廃処分場計画

広島の業者 住民、反対求め請願

東広島市安芸津町木谷に産業廃棄物の最終処分場を建設する計画を広島市西区の民間事業者が進めている。一昨年に県へ事前協議書を提出したが、地元住民は「安全な暮らしがなくなる」と反対し昨年、任意団体をつくった。同団体は設置反対を求める請願を東広島市議会に提出。開会中の定例会で21日の市民経済委員会は継続審議とした。(長久豪佑)

東広島市議会議長は継続審議

予定地は海岸に近い丘陵地で、特産のジャガイモ畑や山林が広がる民有地。事業主体の栗本ホールディングスの計画によると、造成面積は8ha。最終処分場は管理型(埋め立て容量88万9千立方メートル)で、燃え殻や汚泥、廃プラスチック類、金属くずなどを処理する。同社は2017年8月、

県西部東厚生環境事務所に事前協議書を提出。同年9月以降、地権者や木谷自治協議会役員たちに説明したが、現在までに土地取得は済んでおらず、設置許可申請には至っていない。

住民側は専門家を招いた勉強会を重ね、自治協議会や一部地権者たち約30人が18年8月、処理施設反対実行委員会を結成。反対署名も7千人分を超えたという。実行委の大田一夫代表(72)は、予定地そばに広島中央環境衛生組合が運営す



東広島市安芸津町木谷で計画されている産廃処分場の設置予定地

同社は中国新聞の取材に対し、計画地の選定理由について谷状の地形に加え、「既存施設があり、地元理解が得やすいと考えた」と説明。「住民の理解がなければ実施できず、合意を得る努力をする」とした。事前協議書で工事着手は20年4月とするが、「現状では遅れるだろう」とする。

市環境対策課は「住民の不安は県などにきちんと言

る不燃(みなど)の「竹原安芸津最終処分場」がある点を踏まえ、「これ以上の負担は許されない。自然環境も破壊される」と話す。

請願では、農漁業への影響にも触れ、処分場を造らせない趣旨の決議を市議会に求めている。この日の市民経済委(7人)では、施設設置の流れや計画の進み具合を確認した。

産廃処分場の許可権者の県は要綱で、設置者に対し地元住民と協定を結ぶなど良好な関係を損なわない措置を講じるよう求める。また、県から意見照会を受けた東広島市は17年10月の回答に付記する形で「計画の推進は利害関係者や関係地域に居住する住民全員の合意形成が前提」との見解を示している。

室内リフォーム
クロス
床
戸
換気
0120-69-4741
東広島市
082-429-0768

木谷自治協議会・産廃処理施設反対実行委員会は6月の市議会に、「東広島市圏域内における民間企業等による管理型最終処分場建設の自粛を求める請願」を提出しました。法律では、これらの施設設置の許認可者は広島県となっています。民間業者から提出された設置申請書類に不備が無ければ、広島県は認可します。例えば江田島の汚染土処理施設建設についても、4万7千人分の署名を県に提出しながらも、県は許可を出しました。

現在東広島市・竹原市・大崎上島町は、「最終処分量ゼロシステム」の最新の技術を取り入れた素晴らしい施設を三永地区に建設中です。東広島市議会はこのような先進的な政策等を議決し、行政はその実現に向けて取り組んでいます。ところが、民間業者は管理型最終処分場を建設し、圏域外から産業廃棄物の搬入・埋め立てができます。東広島市議会には私たちの請願の重みを深く受け止め、自粛を求める何らかの対策を講じるよう議決し、市行政の在り方を問うことを切望します。

5/26 木谷小運動会 & 地域運動会

平成27年(2015年)、東広島市の「市民協働のまちづくり活動応援補助事業」に採用されて始まった地域運動会。以後、木谷小学校の理解と協力を得ながら地域の行事としてすっかり定着しました。早朝から小学校の運動会を観る地域の人も増え、小学校を身近に感じることができる行事の一つとなっています。



小学校の運動会で4・5・6年生が演じる組体操「我がふるさと 木谷」。全員で“安芸津の海”、“カキ筏”、“大芝大橋”、“ホボロ島”など木谷から見える景色を表現しました。



昼休みの時間を利用して5・6年生が蛟龍太鼓を披露。第13代となる新編成の「絆龍(はんりゅう)」は、新学期が始まって1か月あまりとは思えない見事なバチさばきでした。



午後からの地域運動会には、午前中頑張った児童もそれぞれの地区の色の鉢巻きを締めて参加。初めに全員が準備体操の「いきいき体操ひがしひろしま」で体をほぐしました。



準備体操の後には、地区ごとのチームカラーの大きなボールを頭上に掲げ、落さないように運ぶ「大玉運び」。大きなボールが勢い余って列の最後尾を超え落下して転がるシーンも見うけられました。



「綱引き」はガチンコ勝負。チームの全員が心を一にし、力を合わせて一斉に綱を引くとあら不思議、ズルズルと勝利を引き寄せました。



足元の玉を拾っては投げ、拾っては投げる参加者。しかし長い竿の先にある籠の中へはなかなか入りません。「玉入れ」はほぼ運任せの競技？

部会活動紹介

福祉生活部会



5/18 保育所の運動会で交流。「台風をまきおこせ！」元気パワーでは大人に負けない園児たち。種目名さながらに台風の目のように園庭を走り回っていました。 <木谷地区社協 蛟龍>



6/13 保育所園児とカレークッキング慣れない手つきでニンジンなどを切る園児。この後できたカレーを一緒に食べ、ゲームや歌などで交流しました。 <木谷地区社協 蛟龍>



6/26 「わくわく木谷」で串だんご作り木谷小4・5・6年生が赤崎産のジャガイモを使っておやつを作る「わくわく木谷」。今年は“ポテト串だんご”で、タレも自分たちで作りました。出来上がっただんごは全児童と教職員で賞味。今回はNHKの取材があり、子供たちが楽しく作ったり食べたりする様子が夜のニュースの中で放送されました。 <木谷地区社協 蛟龍>

防災安全部会



6/2 災害に備え、地域ぐるみで土のうづくり。昨年7月の豪雨の際は利用者が多く、土のうが不足しました。このたびは梅雨入りを前に、消防団員15名を含む84名が参加し、1時間ほどで1,400袋を作りました。

次世代部会



7/2 木谷小5年生の「ホボロ島学習」を支援増田典生さんと長尾准司さんのご協力により、船で鼻線島とホボロ島に渡り、古本敦子さんと岡田和樹さんから島の地質の違いや周辺の海に棲む多様な生物の生態について教わりました。



5/24 「初夏の夜 ホタルと出会う 夜のおさんぽ」
 昨年の豪雨による環境の変化が心配されましたが、例年以上にホタルと出会えました。子供やその保護者など30名余りが参加。<木谷地区公衆衛生推進委員会・下之谷集落協定組合>



6/9 きれいなまちづくりキャンペーン
 子供を含む197名が参加。通学路や水路に捨てられていた空き缶やビニール袋などを拾いながら木谷小学校に集まりました。
 <東広島市・木谷地区公衆衛生推進委員会>



7/7 赤崎海岸清掃活動
 昨年は西日本豪雨による災害発生直後で中止となったこの活動、今年は関係者24名が参加して行われました。海岸沿いに漂着したごみや流木を集めて回り、長いものは軽トラックで運びやすいサイズに切断しました。
 <木谷自治協・木谷地区公衆衛生推進委員会>

体育振興部会



実施種目は
 ・大玉ころがし (写真左：東広島市ホームページから転載)
 ・ストラックアウト
 ・玉入れ
 ・みんなでジャンプ

順位	校区名	合計得点
1	中黒瀬	134
2	八本松	132
3	板城	124
..
14	風早	87
24	木谷	58
31	三津	35

6/2 東広島市民スポーツ大会・陸上の部に参加

第31回東広島市民スポーツ大会・陸上の部がアクアパーク体育館メインアリーナで開催され、小学校区ごとに編成した36チームが参加し、4種目で得点を争いました。
 <木谷体友会>

<2019年9月までの各部会の主な活動予定>

次世代部会	8月11日(日)	カニカニ観察会	<木谷はっけん野あそび会>
福祉生活部会	9月8日(日)	福寿の会(敬老事業)	<福寿の会実行委員会>
体育振興部会	9月22日(日)	東広島市民スポーツ大会(球技の部)	<木谷体友会>

木谷の人口(住民基本台帳)	世帯数	人口(男女計)	男	女
令和元年6月末現在	695	1578	768	810
平成30年6月末との比較	-4	-42	-14	-28